

思ってます 二 西をさむ

想像のつく夜桜を見に来たわ 池田澄子

こんなにもあっさり夜桜を詠まれては、どんな秀句を創っても到底太刀打ちできません。夜桜の情景が幾通りも浮かんでは消え、浮かんでは消えて行きます。私なんか単細胞人間ですから坂本冬美さんの歌う「夜桜お七」しか想像出来ませんが、それだけでも大人に成長していたのかなと思います。

この句の読み手は沢山の事象を考えてしまいますが、作者は案外そこを狙ったのかもしれませんが。篝火を焚き、灯籠や雪洞を灯して、風流に浸って居る振りをして大騒ぎしている人間臭さを皮肉っているのかもしれませんが。桜からしてみれば、今年も暖かくなって来たので蕾を膨らませて花を咲かせているだけなのです。

夜は暗い方が好きに決まっています。精々月の光と夜風が時々通り過ぎればいいのです。私を抱き締めてごらん。そうらこんなにも冷たいでしょう。私はずっと此処に居ても少しも淋しく感じた事はありません。皆さんは私を侘しがらせて悦んでいるのですか？ 違いますよね。本当は淋しくて私に会いに来たんでしょう？

ここで私、桜からの提案があります。私は澄子さんのこの句を著作権侵害で裁判所に訴えるべきだと思います。今までの色々な素晴らしい夜桜の句を、全部掬い取ってしまったのですから。賛成の方は挙手を願います。でもこれは大統領令では有りませんので拒否して下さって結構です。何分にも私にはサインする権限も無く、文字も書けませんので、今回は自由投票にしたいと思います。あ～、私にしては良い言葉が出て来ました。そう「自由」と言う素晴らしい響きです。やっぱり俳句は自由が一番なんだなあと思い出しました。夜桜のどの句

---

を取ってみても作者の魂が宿っています。となると、私は訴えを取り下げるべきですね。しかし、残念だなあ。澄子さんの句は、因襲に囚われる事なくここまで言い切っているのに。

音楽だってクラシックもあればブルースに

ジャズが絡んでロックンロール

シャンソン流れる隣国で

声張り上げるカンツォ～ネ

端唄小唄でオッペケペ

艶歌漂うカラオケ喫茶

フォークソングを歌ってる

どうやら夜桜の霊にとりつかれてしまった様です。対象が古くても新しくても良い物は良いのです。

つまり、自己の魂が入っていれば良い句が生まれると思ってます。

鈴に入る玉こそよけれ春のくれ 三橋敏雄

花冷えや日暮は外を見たくなる 池田澄子